

「生命のがん教育」を実施しました

(令和 7 年 1 学期分)

令和 7 年 1 学期は 17 校に出向き、「生命のがん教育」を実施しました。

◆授業形式

- (1) 医療従事者によるがんについての講義 (20 分)
- (2) がん経験者のお話 (20 分)

◆授業風景



(桂坂小学校)

◎小学校 (8 校)

実施日	実施校	学年	担当講師※ (敬称略)
5 月 20 日	京都市立鷹峯小学校	6	京都鞍馬口医療センター 副院長 山下 哲郎
6 月 11 日	京都市立西大路小学校	6	京都府立医科大学 大学院医学研究科教授 武藤 倫弘
6 月 16 日	京都市立養正小学校	6	京都大学医学部附属病院 呼吸器内科医員 細谷 和貴
6 月 20 日	京都市立桂坂小学校	6	京都府健康福祉部健康対策課 医務主幹 森田 理美
6 月 25 日	京都市立柊野小学校	6	京都府立医科大学教育センター 次世代研究者挑戦的研究プログラム特任教授 曾和 義広
7 月 8 日	京都市立大塚小学校	6	洛和会音羽病院 連携診療科副部長 碓井 文隆
7 月 9 日	京都市立西野小学校	6	洛和会音羽病院 外科副部長 伊藤 孝
7 月 16 日	一燈園小学校	6	洛和会音羽病院 外科副部長 花田 圭太

< 児童の感想 >

- ◇ がんは 2 人に 1 人になると聞いて、自分も大人になってからがんになるかもしれないと分かって、もしがんになったら、細胞が大きくなる前に見つけたいと思った。がんになるのを防ぐためにたばこをやめさせたり、注意したいと思った。
- ◇ しっかりとがん検診を受けて、健康な体で生活していきたいと思いました。学んだことを家の人に言ったり、友達などに伝えていこうと思います。
- ◇ 僕は今日の授業を受けて、色々なことを知ることが出来ました。例えばがんは 100%ではないけど予防できるということを知ることが出来ました。だから、これからは今日の授業を思い出しながら過ごしていきたいです。
- ◇ 今日の授業でがんの怖さや不安なこと、逆に早く見つけられたり、予防できるということが分かった。がん

は誰でもかかる病気。だから僕も検診を受けたりしたいと思いました。がんになったら不安で怖いことが分かったけど、そのときは周りの人の気づきがあるといいと分かりました。

- ✧ 年を取ると、免疫力が下がるとがん細胞を追い出せずがんになることが分かった。生活習慣をよくしたり運動したりするようにする。
- ✧ がんについてしっかり知れたし、がん検診を受けるためには、何十万も払わないといけないと思っていたらめっちゃ安くてびっくりしました。
- ✧ 早く気付いて、治療を受けて治すといいと思ったけど、最初は自覚症状がないのが怖いと思った。そして、怖いから検査をしなかったり、治療を受けないのではなく、なる前から検査を受けて、しっかり向き合うことが大切だと思いました。
- ✧ 早く発見することが大切だと思ったし、生活習慣も大事なんだと思った。もしも大切な人ががんになってしまっても、今までと違う行動じゃなくて、それまでと同じように接してあげようと思いました。

◎中学校（3校）

実施日	実施校	学年	担当講師※（敬称略）
5月14日	同志社中学校	2	京都大学医学部付属病院 腫瘍内科 特定病院助教 野溝 岳
7月4日	八幡市立男山第二中学校	1	京都岡本記念病院 消化器内科医長 山口 勝利
7月11日	福知山市立桃映中学校	2	市立福知山市民病院 血液内科医長 西山 大地

<生徒の感想>

- ✧ 私は女なので、子宮頸がんには気をつけないといけないなと考えた。今度予防接種を受けるので、大切な機会だと思い、ありがたく打ちたいと思う。
- ✧ がんは100%とまだ予防できないけど、今、中学生から適度な運動をしたり、朝昼晩しっかりご飯を食べることでなりにくくすることができることを知った。大人になったらがん検診を受けたいと思った。大切な人にもしっかりとがんについて話したい。これからも自分、大切な人を守る行動をしていきたい。
- ✧ がん検診を受けることで、がんの早期発見につながるとわかったので、親に、検診をしっかり受けたほうがいいとアドバイスをしようと思います。

◎高等学校（6校）

実施日	実施校	学年	担当講師※（敬称略）
5月30日	日星高等学校	1	舞鶴医療センター 外科系診療部長 糸川 嘉樹
6月18日	京都府立西乙訓高等学校	1	京都済生会病院 院長補佐・消化器内科部長 大野 智之
6月18日	京都府立南陽高等学校	1	京都山城総合医療センター 院長 山口 明浩
6月26日	京都府立北嵯峨高等学校	1	京都桂病院 緩和ケア科副部長 村上 寛子
6月27日	京都光華高等学校	1	京都民医連中央病院 腫瘍内科科長 ファム グェン クィー
7月14日	京都府立東舞鶴高等学校	1	舞鶴医療センター 緩和ケア認定看護師 小谷 由美

<生徒の感想>

- ✧ がんは誰がなるか分からないし、いつなるか分からないから、がん検診を受けられる年齢になったらちゃんと受けたいと思った。
- ✧ 私は今日の話を聞いて、2人に1人ががんになる可能性があることを知って、とても驚きました。思っていたより身近にあると思った。大きな病気にかかって不安なときに、身近な人はとても支えになると分かった。なるべく寄り添ったり元気になる言葉をかけることで、相手も安心することができると分かったので、自分もそうしようと思った。こういうときは身近な人たちの存在がどれだけ大きい分かりました。

- ◇ がんはとても身近なもので、特に自分の親や祖父母の年代でなりやすいから、しっかり検診に行ってほしいなと思いました。自分自身も最近子宮頸がんの注射を打ったばかりで、がんに少し触れていたもので、より頭に入ってきて有意義な時間を過ごせたなと思います。素晴らしい時間をありがとうございました。
- ◇ 最初はそこまでがんについて知らなかったし、正直治らない病気としか思っていなかったけど、いざ自分がなったら本当に頭が真っ白になると思ったし、2人に1人の確率でがんになるということを聞いて、いつ自分がなってもおかしくないと思ったし、がんにかかって頑張って治療している人をこの授業を受ける前以上に応援したい気持ちになりました。
- ◇ 健康診断では、身体の異常に気付くことができないと分かった。たばこを吸うだけでもがんになると分かった。2人に1人が「がん」にかかるのは確率が高いと思った。
- ◇ 何にもない時にがん検診は行くもの。何かあってからでは遅いと伝えたい。まだ子宮頸がんのワクチンを打ってないから打ちたい。
- ◇ 最初、私は結構体は強いから大丈夫だと思っていました。だけど、今回の授業でお話を聞いて、自分でもがんになる可能性はあるから、がん検診に行きたいなと思いました。

※担当講師の所属・役職は授業実施当時のものです。

「生命のがん教育」の実施を検討されている学校は健康対策課がん対策係までご連絡ください。

TEL：075-414-4766 電子メール：kentai@pref.kyoto.lg.jp